



水は西へー 近畿文明を生んだ伊賀の水

伊賀市長

岡本

栄

冒頭からえらく大層な物言いとなった。世間一般にはなかなか理解いただけの事ではないだろう。

伊賀と聞いて多くの人が思い浮かべるのは、松尾芭蕉も荒木又右衛門もそのけで、今や「忍者」につきるのではないか。伊賀は「忍の国」。海外でも有難いことに想像以上の人気である。「忍者不足で伊賀市は忍者を募集：」全世界にこんなニュースが流れた。



伊賀市位置

が、これは、フエイクニュース。まだ記憶に新しいのではと思う。災禍転福、まあ良い宣伝になったというのが正直なところか。先日NHKのブラタモリで、この伊賀が取り上げられた。曰く、忍者が生まれたのは、この国の地勢に大いに関わるのだと言う。話は今から四百万年前。今の琵琶湖は伊賀に生まれた。地殻変動により湖は北上を続け今日に至る。その痕跡として湖底に堆積した泥岩が一带に残り、風雨に浸食され細かな樹枝状の支谷がたくさん出来た。やがてその谷ごと、人々により農地を巡る争いが生じ生き抜くための技が編み出され蓄積した。すなわち忍の衆であり、忍術の発祥という。恐るべし水の力。水は想像をはるかに超え、人々の暮らしや文化、地域のあり方まで形造るのである。琵琶湖は近畿文明の母という。その母を生んだのが伊賀の地勢と水である。水の流れるは自然な形で人と人の絆を深め、地域と地域をしっかりと結び、一体としての圏域を纏め上げていく。伊賀の水は淀川となり大阪湾に注ぐ。三重に属することとなつてはいるものの、伊勢湾側とは山塊を隔て水界を異にし、繋がりは薄い。ことば・歴史・文化・経済、どれも古来奈良や京都大阪との交流の中に育まれてきた。今、伊賀は、京都府の南山城村、笠置町、奈良県の山添村と三府



御斎峠から見た伊賀盆地

県にまたがって、定住自立圏として広域行政を行っている。基本コンセプトは「水と歴史で繋がる：」である。水の流れるは人の流れ。その流れに沿うことが活力を産む。そしてそれが、地域の未来づくりの確かな水脈ではなからうか。